

1 研究題目

MALTリンパ腫における骨髄検査省略可能条件の検討

2 研究の対象

7例

3 研究目的

現行ガイドラインでは病期診断の原則として一律に骨髄穿刺を施行することが推奨されているが、実臨床において骨髄浸潤を伴う胃限局MALTリンパ腫は極めて稀であり、過剰な侵襲的検査が行われている可能性があり、多施設後ろ向き研究にて、胃MALTリンパ腫症例に対する骨髄浸潤率、骨髄検査実施例／非実施例の予後を解析し、骨髄検査省略可能条件を検討する。

4 研究期間

2015年1月1日 ～ 2026年3月1日

5 研究に用いる試料・情報の種類

診療情報など:診断名、術式、年齢、性別、既往歴など

当院にてMALTリンパ腫と診断された7症例において、BIRC3-MALT転座、骨髄穿刺有無、浸潤率、治療、予後などについてのデータをCRFに入力

6 研究責任者

申請者 森藤 由記